卒後臨床研修センター

Post graduate medical training center

詳細はこちら

センター長

しゅとう　たいち
首藤　太一



専門

総合診療科教授
全体総括　プログラム責任者

スタッフ

教授	すみ　としゆき **角　俊幸**（プログラム副責任者）
教授	かけや　ひろし **掛屋　弘**（プログラム副責任者）
教授	もとむら　ひさし **元村　尚嗣**（プログラム副責任者）
教授	かねこ　ゆきひろ **金子　幸弘**（プログラム副責任者）
教授	にしむら　てつろう **西村　哲郎**（プログラム副責任者）
准教授	とちの　よしひろ **栃野　吉弘**（プログラム副責任者）
准教授	すずき　あきのぶ **鈴木　亨暢**（プログラム副責任者）

業務内容・特徴

卒後臨床研修センターは大学病院としての特徴を活かしながら幅広い初期臨床研修が行えるよう、研修協力病院等と連携したプログラムを組んでいます。

研修プログラムは研修医のキャリア形成に応じて、1 年目研修協力病院、2 年目大学病院のコース、1 年目 2 年目ともに大学病院のコース（全 4 コース。臨床研修と基礎医学が両立できるコース含む。）を設けています。

本プログラムには 4 つの特徴があります。

- 2 年目には全員が大学病院で研修し、最大 10 ヶ月間の選択期間、原則として各診療科で最低 2 ヶ月間の研修期間をじっくり確保
- 地域医療研修（1 ヶ月間）では、青森県での研修も選択可能
- 「緩和ケア研修会」、CPC など多くの講習会が組み込まれたカリキュラム
- スキルスシミュレーションセンター（SSC）で、侵襲的な手技を、勤務時間中に受講必須講習で習得

本学・当院から一人でも多くの「良医」を輩出すべく、今後も活動を続けて参ります。

取り組み

「医師である前に社会人たれ」と人間形成にも力を注いでいます。そのため研修医の育成のみならず、指導医養成にも力を入れ、「研修指導医養成のためのワークショップ」を毎年開催しています。さらに初期臨床研修修了後に、全 19 領域の専門医資格がすみやかに取得できるような連携も十二分に行っています。

がんセンター

Cancer center

詳細はこちら

センター長

かわぐち　ともや
川口　知哉



専門

呼吸器内科部長

スタッフ

化学療法センター長	かねだ　ひろやす **金田　裕靖** 【専門】 臨床腫瘍学 准教授
高精度放射線治療センター長	しぶや　けいこ **澁谷　景子** 【専門】 放射線治療科 部長
ゲノム医療センター長	すみ　としゆき **角　俊幸** 【専門】 女性診療科（婦人科腫瘍）部長

業務内容・特徴

当センターでは、がんの手術療法、薬物療法、放射線療法を中心に、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できる体制を整えています。

手術では、鏡視下手術やロボット支援手術といった低侵襲手術を積極的に導入しており、技術認定を受けた専門医のもと、安全かつ高度な外科治療を実現しています。薬物療法においては、新薬や分子標的薬、免疫療法の導入を進めるとともに、必要に応じてゲノム情報に基づく個別化治療も選択肢の一つとして提供しています。放射線療法では、3 台の直線加速器を活用し、強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射、画像誘導照射など、高精度で多様ながんに対応した治療を行っています。こうした治療体制の連携や、多職種による協働体制の強化を一層推進するため、2022 年には「化学療法センター」「ゲノム医療センター」「高精度放射線治療センター」「緩和ケアセンター」を統合し、「がんセンター」を設立しました。これにより診療の質をさらに高めるとともに、身体的・精神的苦痛の緩和や、治療後の生活を支えるサバイバーシップ支援にも注力しています。診療においては、医師に加え、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種が緊密に連携し、患者さんを中心とした総合的なチーム医療を実践しています。各職種がそれぞれの専門性を発揮することで、治療から療養、生活支援に至るまで、切れ目のない支援の提供を目指しています。また、就労や経済的不安を抱える患者さんへの相談支援や、治療選択を支えるセカンドオピニオンの提供など、がんと向き合う患者さんとご家族を幅広く支える体制も整えています。さらに、こうした診療・支援に加え、特定機能病院として、先進的ながん治療の開発や臨床研究にも積極的に取り組み、より良い治療成果の実現に貢献しています。

地域の医療機関とも密接に連携し、地域全体のがん医療の質の向上にも寄与しています。